

河野委員長挨拶

皆さん、こんにちは。このたびの海事産業委員会の設立に当たり、委員長を仰せつかりました河野と申します。どうぞよろしくお願い致します。

ただいま宿利会長から今回の海事産業委員会の設置の趣旨など縷々あいさつがございました。わたしも、海事産業は「日本の生命線」だと考えています。

船を造り、船を動かす。海に囲まれた日本は、このような「海事産業」がないと成り立ちません。しかしながら、このような日本の海事産業は今大変な状況に置かれています。ますます海外との競争が激しくなり、デジタル化や脱炭素化などの時代の要請が強くなる中で、技術の向上や資本の充実、人材の確保育成など課題が山積しています。とくに、国民の海事産業への関心や理解が薄れてきているように思われることは大変残念です。日本の輸出入のほぼ100%を海上輸送が担っている、まさに「社会インフラ」であることを考えると、大きな危惧を感じざるを得ません。

わたしは国土交通省が主催する交通政策審議会海事分科会の委員長として、2021年に成立した「海事産業強化法」の一連の答申に向けた作業に参画し、造船業・海運業の事業基盤の強化及び競争力強化の実現に向けた様々な施策について議論を行い、とりまとめを行うという重要な作業に参加させていただきました。その中で感じたのは、海事産業の強化を一つの「国民的な議論」にしていかなければいけない、ということです。これは限られた企業の利益のための議論ではありません。海洋国家日本の持続的な発展のために、海事産業の強化をひとつの大きな「国家戦略」として取り組むべきだと思いますし、そうでないと日本という国はますます国力そのものが衰えてしまうのではないかと感じています。

課題山積の海事産業ですが、この新しい海事産業委員会を定期的かつ骨太な議論が行える重要な舞台として活用し、産官学の関係者の皆さんと忌憚のない意見交換をしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほどお願い申し上げます。

本日は初回ということで、事務局の海事センターで資料を用意していただいておりますので、その説明を受けた後、フリートーキングとしたいと考えています。

それではどうぞよろしくお願い致します。